とりもどそう！　河北潟
泳げる湖、おいしい魚、安心して使える水

かほくがた

通信かほくがた　vol.28-3
発行／NPO法人河北潟湖沼研究所
2023年4月30日

CONTENTS

河北潟流域バスツアー　1p
吉野川紀ノ川視察報告　2p
外来植物除去活動報告　3p
その他活動報告　4p
　河北潟自然再生まつり
　生きもの元気米・藤木さんの田んぼ

河北潟流域バスツアー・ゴミ拾いと野鳥観察（2022.11.23.）

ゴミ拾いと野鳥観察を同時におこなうプログラムの河北潟流域バスツアーをおこないました。内灘町の権現森海水浴場のある砂浜と、かほく市の白尾海水浴場の砂浜、内日角ふるかわ公園周辺の3地点でゴミ拾いをおこない、とくに海岸はゴミが多かったことから、小雨が降る中でも熱中してゴミ拾いがおこなわれました。ペットボトルの本数を数えようと呼びかけたところ、子どもたちが率先して取り組んで、15分程度で100本近くも回収されました。野鳥観察は、海岸では雨によりあまり観察できませんでしたが、河北潟南岸にある野鳥観察舎ではマガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、トモエガモ、ホシハジロ、スズガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、コガモ、カルガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリなど、河北潟の湖面にいる水鳥をゆっくり観察でき、ミサゴが魚をとる瞬間も観察されました。午後は河北郡市リサイクルプラザを見学した後、館内の一角で河北潟のゴミについて考えるお話の時間をとりました。最近実施した河北潟ゴミ調査の状況や、20～30年前と比べて河北潟のゴミがどのように変わってきたか等の情報を共有し、クリーン作戦やゴミ調査活動への参加を呼びかけました。リサイクルプラザの近く田んぼには、200羽ほどのコハクチョウが飛来しており、観察を楽しむことができました。エフピコ環境基金の助成金を活用しました。

吉野川・紀ノ川流域視察

2022年 11月 7日～ 9日

奈良県の川上村を源流とする吉野川は、和歌山県に入ると紀ノ川となり、紀伊水道に注ぎこみます。この吉野川・紀ノ川の源流、中流、下流を訪ね、各地で活動している方のお話を伺ってきました。

源流域にある「森と水の源流館」は、源流域の自然や、流域全体の様子も詳しく紹介されています。ここでは事務局長尾上忠大さんより、水源地の価値を伝え続ける取り組みや、流域内の人々の交流を進める活動、学校教育と連携した活動等について詳しくお話を伺いました。

中流域では紀美野町を訪ね、紀美野町まちづくり課・紀美野町観光協会の職員の方よりお話を伺いました。人口減少と高齢化が進む当地で、人口減少をどうゆるやかにするか、移住促進やまちづくり協議会のこと、子どもたちが地域とつながりを持ち、地域外に出ても将来また戻ってくるようなつながりを作る取り組み等についてお話を伺いました。

また紀美野町には600年の歴史を持つといわれる中田の棚田があります。この中田の棚田も視察し、再生プロジェクトに取り組む地域おこし協力隊の行年恭平さん、小川地域棚田振興協議会の北裕子さんより、棚田での活動や自然資源を生かした地域おこし等についてお話を伺いました。紀美野町では、当地で活動するアンフィ合同会社・佐々木彰央さんに同行いただき、各地で詳しく解説いただきました。

下流では、和歌山県立自然博物館を訪問し、学芸員・佐々木歩さんより下流域の自然環境についてお話を伺いました。また「水ときらめき紀の川館」を訪問し、紀ノ川大堰の建設経緯や役割について、また堰に設置された3種類の魚道の効果やアユの遡上調査等についてお話を伺いました。

源流から下流まで各地の方にお話を伺ったことで、各地の自然環境、色々な活動や考え方を知ることができました。（文：番匠尚子）

「森と水の源流館」。地域全体で水源地を守るための取り組みがおこなわれている。

紀美野町を訪問。過疎化や高齢化が進む中、本地域で活動する人たちの連携・交流は重要

紀美野町の美しい棚田

「水ときらめき紀ノ川館」。丁寧な説明により、川の自然と地域を守る仕組みや取り組みについて理解を深めることができた。

外来植物チクゴスズメノヒエ除去活動の継続

毎年11月に、水辺の外来植物除去活動がおこなわれています。2022年は、11月12日（土）に、金沢市大場地区の農業排水路にて外来植物除去活動がおこなわれました。たくさんの参加により、土水路全体を覆っていたチクゴスズメノヒエの大群落が短時間の間に丁寧に取り除かれました。この日は、大場土地改良区、荏原商事（株）、（株）尾山製作所、昱工業（株）、（株）タクマ、（株）中央設計技術研究所、河北潟沿岸土地改良区、NPO法人河北潟湖沼研究所のメンバーが参加しました。大場地区では2012年より毎年除去活動がおこなわれています。土水路が残されている地域で、チクゴスズメノヒエの侵入により、当時はあちこちの水路がチクゴスズメノヒエ群落に覆われ、水が流れにくくなっていましたが、ずいぶん改善されました。最近は毎年のように企業の皆様に参加いただけるようになり、大きな力となっています。

11月13日には、かほく市指江排水機場周辺の排水路にておこなわれました。ここは、おもに河北潟周囲の沿岸排水路にチクゴスズメノヒエが侵入しており、コンクリート護岸のすきまに根がはびこっていることから、1年放置するだけでも群落が拡大するため、継続的な除去活動が必要とされています。この日は、地元の指江、内日角、狩鹿野の生産組合、（株）柿本商会、北菱電興（株）、（株）日立インダストリアルプロダクツ、（株）タクマ、（株）中央設計技術研究所、河北潟沿岸土地改良区、NPO法人河北潟湖沼研究所のメンバーが参加しました。

河北潟自然再生まつり

2022年10月23日、第13回目となる河北潟自然再生まつりが開催されました。色々な団体と連携し、体験イベントやクイズ、ひと昔前の河北潟の様子を伝える活動など、工夫に富んだプログラムが展開され、スタッフを含めて約450名の方が参加しました。河北潟の投網の投げ方を教えてくださっている小浦さんは今年で85歳、今年もたくさんの方に投網を教えてくださいました。河北潟に生息するモクズガニや魚なども事前に採集くださり、多くの来訪者が触れて楽しんでいました。釣り、カヌー、花染めのプログラムも人気で、対応できる最大のところで定員設定されましたが、参加できない方も多くみられたことは残念でした。稲わらであそぼ、水辺公園オリエンテーリング、紙トンボづくりは、人数制限がなく、たくさんの方が参加されていました。2015年から継続されている河北潟から採水してきた水を調べる水質調査にも親子参加が目立ちました。新しいプログラムのゴミ拾いは、16名が参加し、道路や田んぼの水路沿いのゴミを回収しました。今年は理事長の高橋の提案で、お昼にカレーライスがスタッフに提供されました。来訪者には手作りサーターアンダギーが好評でした。

午後は、駐車場が浸水するほどの豪雨となり、突風でテントが壊れるなどしました。午後から予定していたプログラムを中断したり実施できませんでしたが、事故もなく、無事に終了することができました。

「生きもの元気米」藤木さんの田んぼで小学生授業

2022年11月4日、かほく市にある白帆台小学校の子どもたちが、藤木さんの生きもの元気米田んぼを授業で訪れました。子どもたちから、農業を始めたきっかけや、土作りの方法、大切にしていること等についての質問があり、藤木さんは一つ一つ丁寧に回答されました。また、スタッフより生きもの元気米の取組について紹介しました。その後、稲架干しに使う竹の組み方や、バインダーでの稲刈りを実演した後、最後に子どもたちの鎌での稲刈り体験をおこない、約1時間の授業は終了しました。

編集後記

藤木農園の田んぼは、林に囲まれ、組まれた竹に黄金色の稲束が干されると、別世界に来たような感覚になります。平場の金沢市才田町や八田町の田んぼは、開放的な美しい景色です。金沢市岸川町の田んぼには土水路がたくさん残り、山が近く、豊かな田園風景が広がります。和歌山県紀美野町の棚田、平場の田んぼとはまた異なり、素晴らしい造形美でした。(N)

かほくがた Vol.28-3
発行／NPO法人 河北潟湖沼研究所
令和5年4月30日
〒929-0342 石川県河北郡津幡町北中条ナ9-9
電話 076-288-5803 FAX 076-255-6941
ホームページ http://kahokugata.sakura.ne.jp
E-mail info@kahokugata.sakura.ne.jp